

小腸の機能障害の状況及び所見

身長	cm	体重	kg	体重減少率	%
				(観察期間)

1 小腸切除の場合

(1) 手術所見 : ・切除小腸の部位	・長さ	cm
・残存小腸の部位	・長さ	cm

(手術施行医療機関名 (できれば手術記録の写しを添付すること。))

(2) 小腸造影所見((1)が不明のとき)…(小腸造影の写しを添付すること。)

推定残存小腸の長さ、その他の所見

2 小腸疾患の場合

病変部位、範囲、その他の参考となる所見

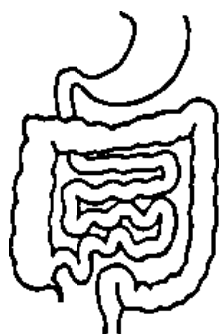
(注) 1及び2が併存する場合は、その旨を併記すること。

[参考図示]

切除部位



病変部位



3 栄養維持の方法(該当項目に○をすること。)

① 中心静脈栄養法：

- ・開始日 _____ 年 _____ 月 _____ 日
- ・カテーテル留置部位 _____
- ・装具の種類 _____
- ・最近6か月間の実施状況 (最近6か月間に _____ 日間)
- ・療法の連続性 (持 続 的 ・ 間 歇 的)
- ・熱量 (1日当たり _____ Kcal)

② 経腸栄養法：

- ・開始日 _____ 年 _____ 月 _____ 日
- ・カテーテル留置部位 _____
- ・最近6か月間の実施状況 (最近6か月間に _____ 日間)
- ・療法の連続性 (持 続 的 ・ 間 歇 的)
- ・熱量 (1日当たり _____ Kcal)

③ 経口摂取：

- ・摂取の状態 (普通食、軟食、流動食、低残さ食)
- ・摂取量 (普通量、中等量、少量)

4 便の性状：(下痢、軟便、正常)、 排便回数(1日 _____ 回)

5 検査所見(測定日 _____ 年 _____ 月 _____ 日)

赤血球数	/mm ³ 、	血色素量	g/dl
血清総蛋白濃度	g/dl、	血清アルブミン濃度	g/dl
血清総コレステロール濃度	mg/dl、	中性脂肪	mg/dl
血清ナトリウム濃度	mEq/l、	血清カリウム濃度	mEq/l
血清クロール濃度	mEq/l、	血清マグネシウム濃度	mEq/l
血清カルシウム濃度	mEq/l、		

注 1 手術時の残存腸管の長さは、腸間膜附着部の距離をいう。

- 2 中心静脈栄養法及び経腸栄養法による1日当たり熱量は、1週間の平均値によるものとする。
- 3 「経腸栄養法」とは、経管により成分栄養を与える方法をいう。
- 4 小腸切除(等級表1級又は3級に該当する大量切除の場合を除く。)又は小腸疾患による小腸機能障害の障害程度については、再認定を要する。
- 5 障害認定の時期は、小腸大量切除の場合は手術時をもって行うものとし、それ以外の小腸機能障害の場合は6か月の観察期間を経て行うものとする。